

2021(令和3)年度事業報告書

自：2021(令和3)年4月1日 至：2022(令和4)年3月31日

公益事業1、写真文化の振興事業

(1) 小学生を対象とした「写真学習プログラム」を全国の小学校10校で指導者8名、参加児童数232名で実施した。このプログラムは、児童たちの興味や関心事に目を向け児童と共に体験を通して学ぶ、「体験、参加型」の学習並びに指導で、写真という優れた記録媒体を使つての「記録・表現することの意味」を理解し、家庭や社会で広く写真を活用してもらおうとの願いがある。(17年間の合計726校24,821名)。富士フイルムイメージングシステムズ(株)及び一般財団法人日本写真アート協会、ウエスタンデジタル合同会社、(株)ケンコー・トキナー、パナソニック(株)、リコーイメージング(株)の6社の協力で行っている。

この児童たちの作品を多くの方々に見ていただこうと、富士フイルム(株)・富士フイルムイメージングシステムズ(株)が主催する「“PHOTO IS” 想いをつなぐ。あなたが主役の写真展2021」での特別企画「“PHOTO IS” 小学生の眼」へ参加児童の作品を毎年展示している。2021年度も425点を10月～12月迄東京等10会場に展示した。児童がどのような物に興味をもって撮っているか、子どもたちの多様な感性を鑑賞していただいた。

(2) 6歳以上の子どもとその家族を対象とした「おやこ写真教室」を清里フォトアートミュージアムで行った。8組16人が参加した。

(3) 技術研究会の開催。

第1回技術研究会「写真家のための写真集制作・出版の新しいスタイルを知る」を6月25日に、同タイトルの「一統編一」を8月17日にいずれもYouTubeで公開した。講師：三木聖也・高木晃宏(凸版印刷(株))、川本康(株)玄光社)

(4) JPS展の開催。コロナ禍による延期の第45回2020JPS展及び第46回2021JPS展を同時に開催。

第45回2020JPS展

公募受付：2019年12月10日(火)～2020年1月15日(水)、審査：2020年2月1日(土)、審査員：野町和嘉(審査員長)、熊切大輔、高砂淳二、水谷たかひと、伏見美雪(写真雑誌『アサヒカメラ』編集長)、共催：東京都写真美術館、後援：文化庁ほか、総展示数：488枚(公募251名428枚、会員作品30名49枚、ヤングアイ11校11枚)、応募総数：1,858名、5,764枚(一般：1,662名、5,358枚、18歳以下：196名、406枚)、入賞・入選者総数：251名、428枚(一般部門：214名、366枚、18歳以下部門：37名、62枚)、文部科学大臣賞：柴田ただしげ「神使」3枚組 カラー

第46回2021JPS展

公募受付：2020年11月10日(火)～2021年1月15日(金)、審査：2021年2月6日(土)、審査員：野町和嘉(審査員長)、小林紀晴、齋藤康一、秦達夫、大塚茂夫(『ナショナルジオグラフィック日本版』編集長)、共催：東京都写真美術館、後援：文化庁ほか、総展示数：452枚(公募214名356枚、会員作品84名85枚、ヤングアイ11校11枚)、応募総数：1,666名、5,188枚(一般：1,511名、4,888枚、18歳以下：155名、300枚)、入賞・入選者総数：214名、356枚(一般部門：174名、305枚、18歳以下部門：40名、51枚)、文部科学大臣賞：後藤芙美子「大河を渡る」4枚組 カラー

展覧会 第45回2020JPS展/第46回2021JPS展。総入場数：3,772名

【東京展】会場：東京都写真美術館B1F、会期：6月1日(火)～6日(日)10:00～18:00、入場数：1,530名
【関西展】会場：京都市美術館別館 1F・2F、会期：6月22日(火)～27日(日)10:00～18:00、入場数：1,107名
【名古屋展】会場：愛知県美術館ギャラリー-G・H・I、会期：7月27日(火)～8月1日(日)10:00～18:00、入場数：1,135名
協力：キヤノンマーケティングジャパン(株)、ソニー(株)、ジェットグラフ(株)、EIZO(株)

2021JPS展会員作品84名のうち73名の作品はモニター展示。『2020JPS展作品集』、『2021JPS展図録』を製作、販売した。

(5) 「2021年新入会員展－私の仕事」を開催した。

会期	場所	入場数	備考
7月15日(木)～21日(水)	アイデムフォトギャラリー「シリウス」	421名	展示17名51枚
8月27日(金)～9月2日(木)	富士フイルムフォトサロン大阪	2,528名	同上

(6) 「第15回2021JPSフォトフォーラム オンライン」をYouTubeで12月17日公開。

『「あなたが撮らずに誰が撮る」～名取賞受賞者、ドキュメンタリーフォトを語る～』前編及び後編

講師：清水哲朗、高橋智史、鳥飼祥恵

協賛(5社)：エプソン販売(株)、(株)シグマ、(株)タムロン、(株)ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ(株)。協力(2社)：(株)ケンコー・トキナー、パナソニック(株)

(7) 写真文化への貢献に対する顕彰として1967年に創設した第47回「日本写真家協会賞」を株式会社日本写真企画に贈り、贈呈式を12月8日(水)、JCIIビル6階会議室で行った。
 贈呈理由：「昭和48年11月の会社設立以来、写真愛好家を啓発する記事を主体とした月刊誌『フォトコン』や季刊誌『写真ライフ』を発行し、プロ写真家の作品と共に、各地で活躍するハイアマチュアの作品を積極的に掲載し高い信頼を得てきた。加えて撮影解説書や良質な写真集を数多く手がけるなど写真界の発展推進に大きく貢献された。その功績に対して」

(8) 新進写真家の発掘と育成を図るための、2021年第16回「名取洋之助写真賞」の公募を行った。
 公募：36歳(2020年は募集を中止したため、2021年に限り応募資格は36歳)までの新進写真家を対象に、同一テーマの作品(プリント)30点を、公募期間の7月1日～8月20日までに提出。プロ写真家から在学中の高校生まで、26名26作品。女性11人男性15人。カラー15作品、モノクロ8作品、モノクロ・カラー混合3作品。山田健太(専修大学教授)、清水哲朗(JPS会員)、野町和嘉会長の3氏により、厳正な選考を行った。
 受賞者：「名取洋之助写真賞」川嶋久人「失われたウイグル」(カラー30点)、「名取洋之助写真賞奨励賞」喜屋武真之介「母と、子」(モノクロ30点)。
 受賞作品写真展：東京展 2022年1月21日(金)～27日(木)、富士フィルムフォトサロン東京、入場数3,528名。
 大阪展 2022年2月4日(金)～10日(木)、富士フィルムフォトサロン大阪、入場数2,769名。授賞式を12月8日(水)、JCIIビル6階会議室で行った。

(9) 第4回「笹本恒子写真賞」は、有識者の推薦による実績のある写真家の候補者を、選考委員 佐伯剛(『風の旅人』編集長)、前川貴行理事、野町和嘉会長の3氏により厳正な選考を行い、写真家渋谷敦志氏に贈り、授賞式を12月8日(水)、JCIIビル6階会議室で行った。
 受賞理由：「ジャーナリズムをベースとしたグローバルな視点と、民族紛争、飢餓、難民、環境破壊といった不条理に晒され、生存を脅かされている、弱者に寄り添った、長年にわたる真摯でアクティブな取材活動とそれらから生まれた作品に対して」
 受賞記念展：渋谷敦志写真展「今日という日を摘み取れ」 2021年12月16日(木)～22日(水)、アイデムフォトギャラリー「シリウス」、入場数518名。

(10) 創立70周年記念写真展「日本の現代写真 1985-2015」の開催
 2021年3月20日(土)～4月24日(土)、東京都写真美術館B1F展示室において、年度を跨いで開催。入場数5,527名。

公益事業2、写真文化の啓発事業

(1) 専修大学ジャーナリズム学科「フォト・ジャーナリズム論」(2020年4月に旧「報道写真論」から変更)に小澤太一、渋谷敦志の会員2名を派遣した。この講座は、学生たちの真実を見抜く目を育て、批評力と行動力を養うことを目的とし、メディアの第一線で活躍する写真家や実務者に実作と体験談をもとに、いまメディアの現場で、何が起きているかを理解してもらうことを目的として平成23年度に開設され、当協会は講師派遣を委託されている。

(2) 文化庁委嘱事業「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」
 2021(令和3)年度収集・調査を行った写真家と原板資料受け入れ状況は、3名3団体、2,459点。

撮影者・団体名	受入日 (初回)	受入本数		内容
		初期調査未	初期調査済	
和木光二郎	2021年4月2日	—	268	人形劇、特撮、芸人等や1960～80年代の世相など
打田浩一	4月8日	—	1,387	比叡山千日回峰行
中国新聞社	10月8日	—	7	広島原爆投下当日の様子など
岩波写真文庫	10月26日	—	513	『岩波写真文庫』の書籍の制作に関する原板資料
高木康允	11月25日	—	279	『出会いの顔』『ふだん着の大臣たち』など
広島平和記念資料館	2022年2月10日	—	5	広島原爆投下当日の様子など
		—	2,459	

国立映画アーカイブ相模原分館フィルム保存庫への写真原板の入庫作業は2021年6月29日、10月21日、2022年3月8日の計3回行い、計18,244点を収めた。写真原板の入庫内容は、佐伯義勝13点、秋山忠右1,751点、岩波写真文庫6,681点、西川孟3,012点、山崎美喜男4点、大和古寺大観3,813点、醍醐寺大観84点、平等院大観1,008点、高田昭雄258点、島内英佑305点、中国新聞社7点、渋谷高弘571点、清宮由美子732点、広島平和記念資料館5点、合計8名・6団体18,244点。

2014年度から発足した日本写真保存センターの作業に係る費用を支援いただくための支援組織は、会員数11社1団体。(株)アイデム、エプソン販売(株)、(株)キタムラ、キヤノン(株)、(株)シグマ、(株)写真弘社、(株)タムロン、凸版印刷(株)、(株)ニコン、富士フィルムイメージングシステムズ(株)、(株)フレームマン、(一社)日本写真著作権協会。

(3) 写真に関する著作権の普及、啓発事業
 ①第1回著作権研究会「『スナップ写真の肖像権を考える』～街の写真から人の顔を消さないために～」2022年1月22日(土)(Zoomによるオンライン開催)講師：佐々木広人(株)キュービック)。参加数41名。
 ②Web上での写真著作権の問題点を研究した。

- ③著作権の情報収集と公表を行った。
- ④著作権に関する「著作権よろず相談室」の名称を「JPS写真著作権相談室」に変更。メールによる相談件数は22件（内、会員4件）。
- ⑤会報著作権研究 連載51「現在の写真著作権をとりまく問題 ～JPS著作権よろず相談の内容から～」吉川信之（著作権委員会委員長）。連載52「令和の時代のスナップ撮影に必要なこと ～『オキテ』とアップデートのススメ～」佐々木広人（㈱キュービック）。
- ⑥「著作権者ID」の会員証への記載を検討、要請。
- ⑦日本写真著作権協会（JPCA）との写真著作権に関わる事業協力をを行う。

（4）『日本写真家協会会報』を年2回、176、177号を発行した。
176号・フォーカス「#SaveMyanmar ミャンマーで市民フォトジャーナリストが活躍」、Telescope「甚大な被害を受けた『川崎市市民ミュージアム』の今」、レポート「都内のメーカー系ギャラリー&ショールーム」など。
177号・座談会「取材担当デスクがいま振り返る 東京2020オリンピックの、長く熱き日々」、Telescope「もう一つの東京2020 スポーツ写真の現場から」など。

（5）インターネット、ホームページ、フェイスブックを利用したサービス業務。日々の更新、内容の見直しと変更及び修正。協会事業の公開など。EC（エレクトロニック・コマース）サイト運営の準備。

（6）写真に関する国際交流事業
新型コロナウイルスの感染拡大防止により従来型の国際交流セミナー、研究会の開催が困難なため、協会ホームページ上で「表現者たち」と題する発表を行う。
Vol.5「自然とつながる時 Connecting moments with nature」小池キヨミチ（JPS会員）
Vol.6「写真家 細江英公～映像を越えた魂の世界～」細江英公（JPS名誉会員）
Vol.7「『被写体』を越えた何かを求めて～心に焼き付く光景は個にある」林典子
Vol.8「『ジャンルを越えてリアルを追い続ける』－マーク・エドワード・ハリス氏の世界－」マーク・エドワード・ハリス

（収益事業）

収 1 事業、書籍、物品の販売事業

- （1）ネガカバーなど写真整理用品や「JPS腕章」とPRESSステッカーの製作及び販売をした。
- （2）海外プレスカードの発行をした。

（その他の事業 共益事業等）

他 1 事業、ニュース、名簿の製作発行事業

- （1）『JPSニュース』を年6回（No. 590～595）発行した。
- （2）『会員名簿2020～2021』増補版を2021年5月に、『会員名簿2022～2023』を2022年1月に発行した。

他 2 事業、祝賀会の事業

- （1）2021年度の会員相互祝賀会は新型コロナウイルスの感染拡大防止により中止した。

事業報告書の付属明細書について

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成いたしません。